

第二十六章 人間・墮罪

どのようにして罪がこの世界にはいったかの問題は、すべての思想体系が直面する問題である。聖書はこの問題に明確に答えている。聖書の初めの数章は、アダムとエバの罪への墮落を記録している。

I 墮罪以前のアダム

1 無垢

アダムとエバが創造された時には無垢の状態であった。そして彼らは他の被造物と同じように「非常によかった」(創世 1:31) ののである。しかし、彼らの性格は聖潔とは言い難かった。聖潔は神の属性であり、罪を犯すことが不可能であることを示している。人間は神のかたちに造られたので、完全な人格と道徳的決断をする能力が与えられていた。しかし、人間も御使いも罪を犯す可能性をもっていた。まず、サタンが罪を犯した。(イザヤ 14:12-14、エゼ 28:15) サタンについて罪を犯した御使いたちは「自分の領域を守らなかった」(ユダ 6) と言われている。人間はそのサタンの影響によって罪を犯したのである。

2 墮罪

創世記 3 章には、アダムとエバが罪を犯したいきさつが記されている。神の一つの禁令とそれを持ち出したサタン。そして神のことばに対する人間の不誠実さが罪の原因となった。サタンは嘘つきで、実に巧妙に人の心に入り込んで罪を犯させた。(Iヨハ 2:16)

II 墮罪以後のアダム

アダムとエバが罪を犯したとき、最初の祝福された身分を失い、いくつかの広範囲にわたる変化にさらされることになった。

1 彼らは霊的な死と肉体的な死の両方を免れないものとなった

「それを取って食べるその時、あなたは必ず死ぬ」(創世 2:17) の宣言通り、彼らはすぐさま霊的に死に、肉体の老化と衰弱の過程を導入し、やがて時が来ると彼らの肉体は死ぬという罰も受けた。

2 神のさばきはサタンにも下り、また蛇はのろわれて地をはうものとなった

創世記 3:14、15 には、蛇に対するさばきと神とサタンとの戦いがどのように人類にかかわってくるかが述べられている。

3 特別なさばきがエバにも下った

創世記 3:16 を見ると、彼女は子供を産む時に苦痛を経験し、夫に従うことを要求される。死の事実は子孫が生まれ続けることを必要とする。

4 特別なのろいがアダムに下った

創世記 3:17-19 にはアダムに対するのろいが記されている。彼は苦勞して糧を得なければならない。また、自然界は彼らの罪のゆえに変わってしまった。(ロマ 8:22)

Ⅲ アダムの墮罪の人類への影響

聖書には三つの転嫁 (Imputation) が記されている。

1 アダムの罪が彼の子孫に転嫁される (ロマ 5:12-14)

アダムの罪は生まれてくるすべての人類に転嫁される。それゆえ人間は直接的な罪を犯していなくとも、罪人であると宣言されている。(ロマ 3:10、23)

2 人間の罪はキリストに転嫁される (Ⅱコリ 5:21)

キリストが人類の罪を負われたことは明白である。(イザ 53:5、ヨハ 1:29、Ⅰペテ 2:24、3:18) なぜなら、これ以外には神に義と認められ、受け入れられる根拠はないからである。

3 神の義は信じるものたちに転嫁される (ロマ 3:22、Ⅱコリ 5:21 他)

キリストの十字架の御業のゆえに、信じる者は罪のゆるしと、神の義をいただく。

4 墮罪ゆえの神のきよいさばきはすべての人のうえに注がれる

- ① 転嫁された罪のゆえ
- ② 遺伝された罪の性質のゆえ
- ③ 人々が罪の支配下にあるゆえ
- ④ 人の個々の罪のゆえ

5 古い創造の上にふりかかる罰

- ① からだからたましいが離れる肉体的な死
- ② 神からたましいが引き離されるといふ霊的な死
- ③ 第二の死